

目指す生徒像 『○思いやりのある生徒 ○心身を鍛える生徒 ○自主的に学ぶ生徒』

□新横綱 照ノ富士に学ぶ 『諦めない強い心!』



新横綱 照ノ富士

日本相撲協会は7月21日午前、東京都内で理事会と秋場所（9月12日初日、東京・両国国技館）の番付編成会議を開き、横綱審議委員会から推薦された照ノ富士（29）＝本名・ガントルガ・ガンエルデネ、モンゴル出身、伊勢ヶ浜部屋の、第73代横綱昇進を決めました。

新横綱は2017年初場所後に昇進した稀勢の里以来で、令和では初めてです。平成生まれでは初の横綱となりました。

破竹の勢いで勝ち続け、2015年夏場所後に大関まで駆け上がった照ノ富士。しかし、同年秋に右膝前十字靭帯（じんたい）を痛めると、2017年秋場所を限りに大関から陥落。その後は内臓疾患も重なって休場が続き、序二段まで番付を下げました。

横綱	三役	幕内	関取
大関			
関脇			
小結			
前頭（平幕）			
十両 （正式には十枚目）			
幕下			
三段目			
序二段			
序ノ口			

※下線部については番付表参照 ⇒

車いすに乗り、日常生活もままなりませんでした。当時の日々を照ノ富士は「必死に生きようとする自分がいた。一日の大切さは、その時に学んだ」と振り返ります。

懸命のリハビリとトレーニングを重ね、ようやく約2年半ぶりに幕内に返り咲いた昨年7月場所で、5年ぶりに優勝しました。

そして、関脇だった今年3月の春場所での優勝に続き、21場所ぶりに大関に復帰した5月の夏場所でも連続優勝しました。直近の7月に行われた名古屋場所では、全勝優勝した横綱・白鵬に次ぐ14勝を挙げました。

そして、場所後に行われた、7月19日の横綱審議委員会で、内規にある「大関で2場所連続優勝か、それに準ずる好成績」と評価され、満場一致で推薦されました。

横綱昇進を伝える使者に対して、照ノ富士は「謹んでお受けいたします。不動心を心がけ、横綱の品格、力量の向上に努めます」と口上を述べました。

照ノ富士はこう話します。「自分はいつ終わるか分からない。だから今日を精一杯生きるだけ」。悲壮感のある言葉は、両膝の古傷という爆弾を抱えているからです。不屈の精神でつかんだ最高位で、さらに緊迫の戦いに向かいます。

みなさんも、夢や希望を決して諦めることなく、最後の最後まで粘り強く、精一杯の努力をして下さい。

